

モニター通信 No.2

皆さんから寄せられた「モニター通信7月分」を紹介します。

「高齢者の悪徳商法被害を防止するアイデア募集」 ～被害防止するためのアイデアを自由にお書きください～

モニターから No. 1

高齢者が悪徳商法の被害を受けないようにするためには、どのような手口があるのか、どんな風に騙されているのか、高齢者に知ってもらい気を付けてもらうことが大切だと思います。回覧板にも時々注意を呼びかけるチラシが入っていたり、土浦市の広報誌でも悪徳商法の手口が紹介されています。注意を喚起しているが、それが十分に届いていないのが問題点ではないでしょうか。

高齢者に悪徳商法について強く印象付け、記憶に留めてもらうためには、以前オレオレ詐欺がテレビで取り上げられて、その後被害が減ったように、悪徳商法の手口をテレビで取り上げるのも一案だと思います。判断力の衰えた高齢者に対しては、とにかく周囲が注意して見守るしか方法はないようですが、身内でなくてもおかしいと気づいた時、通報できて対処できる社会のしくみにしてほしいと思います。

モニターから No. 2

悪徳商法は商品の売り付け、家屋の点検・補修、先物取引・内職商法など15種類ほどがあげられていますが、いずれも金持ちの高齢者を狙ったものです。話が嘘と分かった時には、お金は取られている。なぜ騙されるか。それは「消費者に何らかの変化があった時、セールの手先が上手さがあり手口が一つ一つ違う」と言われています。また、これに加え高齢者自身が戦後の日本を復活させ発展させてきた経験の自尊心が災いしていたのではないかと考えられます。

ちよつとうまい話だが俺なら大丈夫、ほかの人よりいいもの・いい儲けをして家族・周囲の人を驚かせてやると思って購入・実行してしまい大損したケースが見受けられます。そのことがあまり解らず、周囲の人にも相談しないまま、解ったつもりで相手の口車に乗って正当化してしまう高齢者の、アバウトな判断力が事件を起こしてしまうのではないかと思います。

そこで提案させていただきます。「うそこけ」です。

- ① う （上手い話はない・鵜呑みにしない）
- ② そ （一人で決めず相談する）
- ③ こ （断る・理由は要らない）
- ④ け （その場で契約しない）

私は昨年11月27日のセミナーを提案します。これだけ守れば大丈夫と思います。

モニターから No. 3

モニターから No. 4

他所から電話が掛かってきたら、番号を見て身に覚えのない番号の時は留守番電話に切り替えます。留守電の応答文を変更し、最後に「不審な電話は通報します」としています。NTTのハローページ電話帳は、20年以上前に番号を削除していますが、不審な電話はよく掛かってきます。

モニターから No. 5

振り込め詐欺・悪質商法による被害者が毎日のように出ているのを、新聞やテレビで目にし後絶ちません。不思議に思います。騙す側は、次々と巧妙な手口を駆使して攻めてくるのでしょう。

騙されないための特効薬はないと思います。地道ですが、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦を孤立させないように、周囲の人や離れて暮らしている家族が事あるごとに話題にし、頻りに声を掛けて被害者を少なくする以外ないと思います。

モニターから No. 6

先日、知人の奥様に息子と名乗る電話があり、ご主人に内緒でお金をまとめて言われるままにフレッシュひたちに乗って上野まで行きました。おかしいと気付いたご主人が警察に連絡し、上野に着いたところで無事に保護されました。母親として息子の恥を秘密裏に何とか解決してあげたいと努めた結果でした。母たちは騙された自分を恥ずかしいと思っていますが、偽り慣れた人間がはびこり過ぎている今の日本社会の方こそ恥じるべきでしょう。

「母親はもったいないが騙しよい」中でも仕掛けて来る犯人は、話術や情報操作が巧妙になっているのです。誰にでも起こりうることと知ってもらう為に、気軽に詐欺の手口を話し合える環境作りが大切だと思います。

恥ずべき者は恥じず、心優しい母は恥じて謹慎しています。

モニターから No. 7

毎日のように新聞・TVに詐欺の被害が報道されているにもかかわらず、相変わらず被害に遭う人が後を絶たない現状だ。先日、私の一人暮らしの義母も、あわや被害に遭う寸前だった。「携帯の番号を変えた」「風邪をひいた」というお決まりのパターンなのに、すっかり信じ込んでしまったみたいだ。幸い我が家に電話してきたので、自分は騙されたと気づいた次第だ。義母は、私は詐欺などに引っ掛からないと自負してただけに、ショックは総統なものだった。

やはり、一番の対策は家の電話をナンバーディスプレイにして、不用意に接触しないことだと思う。用意のある人は何度でも掛けてくるし、電話に出なければ様子を見に訪ねてくるかもしれない。犯人はパターンをいろいろと変え、あの手この手で趣向を凝らしているのです。手口を周知徹底させることも大事だ。老人が集まるイベントでの説明や、若い世代の人に知らせて伝えてもらうのも手だ。

人生の晩年になって、子を思う親心を逆手に取る。このような犯罪は人として許されるものではないと思う。

モニターから No. 8

私の祖母も訪問販売にしつこくされた経験があります。購入はしませんでした。その時は家族は外出中で祖母しかいませんでした。このような時、やはり自己判断が危険だと思うので、相談する相手がいると安心です。家族や友人がいればよいのですが、一人暮らしの高齢者には「相談電話」のような窓口を設けてはどうでしょうか？マグネットで電話番号を大きく書いたものを配るとか。

それから地域で定期的に講習会などを開いて、悪質商法の新しい情報や手口を高齢者に伝えるのはどうでしょうか？再現劇のようなものを見せてもよいですね。どちらの案も地域の協力などがないと出来ないことかもしれませんが。

やはり、ひとりひとりの騙されないようにする注意が必要ですね。

モニターから No. 9

振り込め詐欺や高額商品の訪問販売等、高齢者が被害者となる事例が後を絶たない。そのような報道を見聞きする毎に、何故どうしてと思う。自分は絶対にそのような目に遭わないと思うけれど、100%というのはないので気を付けなければと自戒している。死亡事故の加害者も被害者も半数以上が高齢者であるとの話を聞くと、やっぱり知らず知らず判断能力が落ちてくるのかと思う。

一番は、いろいろな年代の人と話したり付き合ったりできるようにしておく。ニュースはこまめにチェック。さまざまな趣味を持ち、熱中できるものを見つける。信用しない。電話勧誘はまず断る、聞かない。迷ったら誰かに相談する・・・等。

モニターから No. 10

我が家ではインターホンが鳴っても、何方ですか？で相手を確認めます。合わせてのぞき窓から本人を確認して内容を聞きます。が、悪質業者だと判断したら、その場ではっきり断ります。

「うかつに家の中には入れません」

安全だと判断した時には、自分で外に出て対応し、名刺、または身分証明で本人を確認めます。電話での勧誘等の対応ですが、必要がないので断ります。しつこい勧誘には年金生活と家のローンを理由に電話を切ります。

防止対策としては、家の中に入り込んだ時の策として、玄関の中に「警察官の写真など」を掲げてみて「夫」「息子」と言えばいいかも。門を閉めて玄関のカギを掛け、うかつには家の中に入れないようにするのが一番だと考えます。

モニターから No. 11

高齢者の悪質商法被害を防止するには、具体例のある情報とその情報を交換できる場があることだと思う。市には町単位で町内会や高齢者のための会がある。大きな単位での講演会や防止キャンペーンは多くの参加者を期待できないが、こうした小さな単位の会にお願いして、被害防止ビデオやコントなどを利用した活動をしてみてはどうだろうか。ビデオにしても教育ビデオのような退屈なものではなく、興味を持って見られるような工夫が必要だとは思いますが、少なくともどんなことが起きているのかを知らせることができるのではないだろうか。高齢者が自ら参加できる体験型寸劇なら、もっと印象深いだろう。

そうした小さな単位では、お互いが知り合いだ。何か変なことがあったらお互いに言い合える

のではないかと思います。高齢者もPCを使える時代、新たな詐欺を防止するためにもコミュニケーションは大事だ。

モニターから No. 12

- ① 訪問販売に対して
ボケの振りをする。金がない、買えないから帰ってくれと言う。
- ② 電話による勧誘に対して
少ない年金で暮らしているから金はない。株式なんか判らない。(品物を勧められたら)そんなものは要らない。(儲け話には)儲かるならあなたがやれば良いと言って電話を切る。
- ③ 催眠商法に対して
空き店舗などへの急な出店はおかしいと思って近づかない。言ってみた時ひどく安い値段で次々売るとなれば、おかしいと感じて早速退散すること。(このケースは最近では少なくなっていると思われる)
- ④ 宝石類の買い取りを持ちかけられた時
年金生活でやっと暮らしているのだから売るものなど無い。もともとアクセサリーや宝石に興味がないので持っていない、帰ってくれと言う。
- ⑤ 安易に戸を開けて中に入れたりしない。

以上、常識的なことだが、これ以上の有効な対策はないと思われる。

モニターから No. 13

「高齢者の悪質商法被害防止」とは、どう考えるのか。「高齢者」に限るとすれば、高齢者と思われまいようにするのがいいであろう。他人に年齢など言わない、うっかりどこかに年齢など書かない。その人が高齢者と思われてしまう、あるいは高齢者と知られてしまうのはなぜなのか。そういう被害にも勧誘にも遭ったことのない私にはわからない。万が一高齢者と知られても、知らん顔をしていけばいいではないか。何かの勧誘があつたって、そういうものには興味はない、係りたくないとはっきりとした意思表示をすればいい。

世の中に、初対面の人にうまい話をしてくれる人などいるわけではない。そんなうまい話なら他人に勧めずに自分がやれば良いわけで、赤の他人にやらせるはずはないと知るべきである。儲かるからと、言われるがままに初対面の人に現金それも大金を渡す人がいるって、なぜなのだろう。

現金など、普段の生活に必要以上には手元に置くべきではない。大金をすぐに出さなければならぬことなんて、高齢者にはあり得ないのだから。大金が手元になれば、すぐに渡すことはないであろう。大金を銀行から引き出す前に、本当に儲かる話なのか、家族・知人に相談する時間を持つべきである。

モニターから No. 14

- ・ 確実に悪質な被害に遭った場合、会社名をどんどん公表する。すぐに会社名を変えようと思うが、1件でも減らせればと考える。法的に問題があるなら検討してもらいたい。
- ・ 周りから事例をあげて、前もって相談をするように言う。電話番号も貼っておく。
- ・ 老人会などでお芝居をしたりして、教育しているとよく聞くが、その時難しいかもしれないが経験者の方、または代理の方の話が聞けたらと思う。また、その時は実際に断り方、対応

の仕方を実際にやってもらって、身体で覚えるのは大事だと思う。断り方、時には軽い嘘もつかなければならないので、難しいことだと思う。「ああ言えば、こう言う」をこちらも練習しておく。

モニターから No. 15

高齢者をねらう悪質商法は、減るばかりか新しい手口で次々と高齢者がねらわれてしまうのが現実です。もはや個人レベルでの解決は限界にきているような気がします。警察や市町村・金融機関と連携をとり、対策を講じなければならない段階にきていると思います。

ある新聞で、振り込め詐欺を防ぐために警視庁が「自動通話録音機」なるものを無料で貸し出しているという記事を見ました。「振り込め詐欺」の防止のため、会話内容が自動録音されます」というメッセージが流れるそうです。一人暮らしの高齢者には、非常に有効だと思います。

家族がいてくれたり、判断力のあるお年寄りはある程度対策がとれますが、一人暮らしのお年寄りは家にこもることが多く、情報が十分に行き渡らないのが現実だと思います。自治体や市町村等が見守りを続けられるような、ネットワークが十分に機能できる社会を望むばかりです。

モニターから No. 16

振り込め詐欺や訪問販売は、昨今手法も進化し、後を絶たず、被害も大きく、ニュースが流れるたびに家族と話し合っています。日頃から家族情報を確認し、知らない番号からの電話は、真正の業者でも大切な事はこちらから掛け直すこともよいかと思います。また、当座の生活に不都合なことや興味のないことは、キッパリ断るようにします。

訪問販売では家に入れないこと。「タダ」「無料」という案内に惑わされず、不必要なサービスや品物は受け取らず、必要なものは信頼できる店舗で購入する。突然の訪問には、応じないこともありかと思っています。機器メーターの点検や交換などは、業者の確認や隣近所でも実施しているかが大切です。近所の人と普段から付き合い、情報交換すること。また、少し不便でも手元に不必要な現金を置かないで自己管理すること。

いつも情報入手を怠らず、少しおかしいなと思ったら、一人で処理しないで家族、隣近所(それに消費生活センター)に聞くことが大切と考えています。

モニターから No. 17

一人で即答しないこと。例えば電話、訪問販売などで商品をすすめられた時など、家族が同じ業界に勤めて居りますので、丁寧に断ります。長話はしない。マイペースで話を終わらせます。(強く言って断ると後味が悪くなります)

電話のそばにベルなどを置いておき、誰かが訪ねて来たようにして「ハイ」と返事をし、電話を切るチャンスをつくる。

モニターから No. 18

私なりのやり方として

- ・「電話」の場合は、知らない番号の表示があった場合はとにかく出ないことにしている。
- ・万が一応答してしまった場合では「消費生活センター」に相談する旨を告げてすぐ切る。
- ・「勧誘で訪問」に来た時は、モニターで応答し、すぐ断りの返答をする。

※とにかく「あいまい」な返答をしないで、きっぱりとはね退けることが必要でしょう。

モニターから No. 19

被害防止のためのアイデアとして

- ・何と言っても家族とのコミュニケーション、連携の強化が基本なのではないでしょうか
- ・オレオレ詐欺のような手口には必ず“合言葉”を作っておくとか・・・家族でしかわからないものをきちんと話し合っておく
- ・電話を受け、すぐに受け入れて行動しない！行動する前に、必ず消費生活センターに問い合わせ相談してみる
- ・消費生活センターの存在を、もっと身近なものになるような徹底した啓蒙活動が必要なのではないでしょうか

モニターから No. 20

本当に、どんなに悪質商法被害の実態をメディアで報道してもだまされるんだなあ～と驚いています。

防止する方法として

- ① 我が家では急がされても必ず家族に相談すると伝える
- ② 電話の相手に家族にはいない名前で聞いてみる
- ③ この電話には録音機能がついているので、はっきり話をして下さいと言う
- ④ 家の電話は非通知設定にする

モニターから No. 21

モニターから No. 22-1

勧誘の手段である電話対策として「ナンバーディスプレイ」を導入しています。非通知や普段かかってこない電話番号に対しては留守録設定にしておき、FAXで対応するようにしています。それから夕餉の時にかかってくる電話に対しては、特に注意して慌てて受けないようにしています。

モニターから No. 22-2

高齢者をターゲットにする商品については、セールスの話を受ける前に自分たちでしっかり調べておくことです。年齢に応じて購入を必要とする商品がありますが、同世代の高齢者から情報を十分に取り入れておくことです。

モニターから No. 23

高齢者の悪質商法被害を防止するアイデア。はじめは難しそうに感じたが、我が家で長年習慣でやっている悪質な訪問販売や電話勧誘に巻き込まれないためにしている方法なら、高齢者の方でもすぐに取り組めるのでは、と思った。

我が家の取り組みは二つある。一つ目は、玄関にいつも鍵をかけておいて、来客はまずインタ

一ホンを応対すること。二つ目は留守電とナンバーディスプレイを活用して、覚えのない相手からの電話には出ないことだ。電話の方はこれに加え、知り合いには防犯のためにすぐには電話に出ないことをあらかじめ伝え、留守電のメッセージが流れたら誰か名乗って下さいというお願いもしている。

この二つを実行すれば、見知らぬ人と直接対面して応対する機会が減り、無用なトラブルを避けられる。手間もさほどかからない、始めやすい取り組みだと思う。

モニターから No. 24

高齢者のあまりに高額な被害の事例を見聞きするにつけ、防止策はないものかといろいろ考えてみるのですが、なかなか難しい問題です。“自分は騙されない”と信じていても、息子や孫の名前で電話がかかると、一瞬理性を失うことがあるものです。しかし、日々高齢者をターゲットにアノ手コノ手で騙しのプロが一步一步迫ってくることを自覚し、「騙されないぞー」と“喝”を入れて生きることが大事だと思います。

月並みですが、儲け話・うまい話は信じない。怪しい誘いきっぱり断る。見ず知らずの人にお金を渡さない等、肝に銘じておくことです。

モニターから No. 25